

# 公民館だより

由良地区  
公民館

51年度才2号

51.11.29

## 一票を大切に 四方 寿朗

昭和二十三年九月 私はまだ学生の頃 引揚船信濃丸に乗船して河口島へ行った時のことだ。当時の中国は、まだ内戦の最中だった。そのため東北からの引揚者の到着が遅れ 港外に一週間待たされた。漸く乗船して来たのは 旧満州医大の教授や満鉄技術者とその家族だった。その時間聞いた話に、私は全くあきれてしまった。ハルビンからの途中 列車が田舎の駅に停って動かない。機関士が堂々と賄賂を要求するのだ。代表者が飛車するよう 交渉している間に、貨車の荷物がごんごん盗まれる。やむを得ず必要な金を集めて渡す。しばらく行くと又停車する。又交渉が始まる。これの繰返しだった。やっと港に着くと今度は税関の持物検査。これが又無茶だった。検査とは名目だけで、荷物が二個あれば、内一個は内容をも改めずに没収する。やむなく又代表が役人と交渉して莫大な賄賂を送って何とか没収を免れたという事だった。我々の船に乗って来

## 由良小唄考

熊田 熊一

歌も踊りも太古より今に至るまで文明人と野蛮人とを問わず、洋の東西を問わず、無数の人々に楽しまれ持てはやされてきており、これは人間の本性だと思います。歌って踊って楽しむことは、健康にもとても良いと云われています。由良の盆踊りでは、永平哉踊と相模取踊が月の出を待ちかねて云々とした由良海浜で仮装人も大勢混って賑やかに踊られ、月が中天にかかる頃になると皆々浜を引き上げて、松原寺境内へと崩れこんだものである。ここで亦、二重三重の大きな輪になって踊り明かしたものである。「人の踊るに踊らぬものは、明日の今頃は悔しかる」とか盆踊りにはやはりお月さんが恋しい。

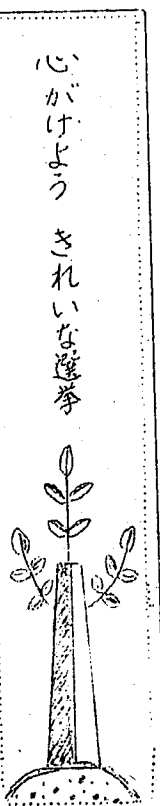
終戦後は、小学校の校庭で櫓を組み旗や提灯を張りめぐらせて、電灯の下で由良小唄や由良音頭(当時、作詞作曲振付されたもの)が活発な青年楽団員の伴奏に合わせて大人も子供も豪華な踊りを繰り広げたものだが、いつしか忘れられてきた。

永平哉踊りは、昔から由良に伝わる代表的な盆踊りで純

た時の安堵の様子が今でも私の目に浮かぶ。こんな無法な政府が永く続く訳がない。翌年、蒋介石総統は運われて台湾に逃げ、今日の新しい中国が誕生した。

しかし、これはよき事ではない気がする。今年一年国内を騒がしたロッキード事件をみて、それを痛感する。いよいよ総選挙も目前に迫った。総理大臣をはじめ、政界財界の大物が、国民の前でふてぶてしい態度でうそをつき、これがバテて保平党の実態を暴露した。これで政治の流れが変わるかと思っただが、各野党も肝心な時につまらぬ争いに明けくれ、折角のチャンス逃してしまった。

これでは投票に行くのが嫌になるのも無理はない。しかし金権と汚職の政治を正すには、何よりも選挙が大切である。目先だけの利益や、個人的なつながりを捨て、今度こそはよく考えて、各自が真に国民のためになると思いう候補者に、かけがえのない一票を投じよう。自分の幸せは自身で手に入れよう。



心がけよう きれいな選挙

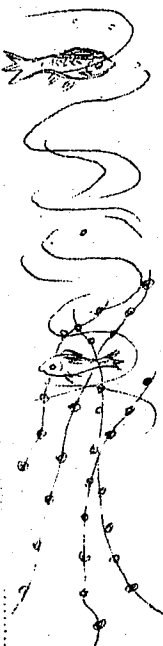
情な人情風俗が歌われ、優雅な歌であり奥ゆかしい踊である。

由良小唄は、小田泰次郎氏作詞で若い人造の感覚にピッタリで且近代的な由良観光の宣伝にも一役買っており、共に御土産能としていついつまでも残したいものである。

今年の公民館主催の盆踊り大会はこの由良小唄と相模、多大の労力をかけて出来た録音テープの伴奏に合わせて多数の協賛同好者が会場に集まり張りきって踊られた事、由良地区民の一人として感謝しています。

由良老友会でも九月、廿後由良荘への歩こう会の際、昼食後の余興に由良小唄を踊り、尚十月の老友総会でもこれを踊り、また宮津市老連大会では、十二百人の会員を前に十人の者が揃いの衣裳で堂々と由良小唄を踊り好評を拍しました。尚、今後も由良小唄の発展に期待しています。

御土産能としての盆踊りは、後世に伝え残すことの重要性を各々自覚されて進んで踊りの輪に加わり、元気で楽しく踊られるよう希望して止みません。



# 思い出(三) 製塩 中西 茂

大東亞戦争の終戦後は物資が全く不足しました。このま  
までは国内で一千万人の餓死者が出ると言われて程です。

特に人間の身体に必要な塩が不足しました。由良では「製  
塩」が由良浜のあちこちではじまりました。その時分の由  
良の浜は今と違って渚まで八十米もありました。私は徴用  
からグンゼに復職していましたが、グンゼでも早速はじめ  
ました。昭和二十一年七月のことでした。製塩の方法を申  
しますと、

- ① 約二十人程の人が前夜から晴海園に泊る。
- ② 朝四時に起き、現場に行き桶をかついで海水を汲み上  
げる。一人で百荷以上もかつぐので肩が痛くなった。
- ③ この海水を杓で砂浜の上に撒き散らす。
- ④ 晴海園に帰って昼頃まで寝る。弁当を食へて再び出勤  
する。
- ⑤ 海水を撒いた砂浜はカラカラに乾いている。この砂を  
掻き集めて一ヶ所に積む。
- ⑥ 砂浜の中央にたっぴの底のない枠を置き、その中に

製塩の技術は松下(今の宮本)の岸田猪之助さんから指  
導して貰い、設備や申請については宮本庄五郎さんに教わ  
りました。政府へもうまく申請して実際に要した経費以上  
の交付金を受けました。

海水の撒布は、グンゼは途中から動力をつかってポンプ  
で撒きましたので、隣の「日東精工」の製塩されている人  
から羨ましがられました。この製塩事業は、二、三年で廃止  
になりましたが、昔は由良の浜では製塩がなかなか盛んだ  
ったようです。この時使ったかつぎ桶が由良郷土館に保  
存されています。

なお参考までに申し上げておきますと、グンゼ晴海園は  
脇の西端にあります。このあたりは昔は墓場と名稱も「  
ボーチ」と申しました。広い刈藁畑で一ヘクター(一町歩)  
もありました。大正十年頃石田万蔵さんの家(稲荷神社の  
東)の前に、クミはらしクと言う料理屋が建ちました。そ  
のお祝いに由良で始めるの「活動写真」が開かれ、私も見  
に行きましたが、「四谷怪談」というこわい映画で、子供  
の私は夜は一人では便所に行きませんでした。このみ  
はらしの建物は現在晴海園の旧館になっています。その後

き集めた砂を積み上げる。一米五十糎程も。  
⑦ 積み上げた砂の上から、海水を杓でそそぐと、枠の下  
方の蛇口から濃縮された海水が出るのを桶に溜める。

⑧ 一杯になると塩小屋の平釜(皿×皿)に入れ、数時間  
薪をどんどん焚き煮つめる。

⑨ 平釜の中には、みるみる白い塩が出来る。  
こつして出来上がった塩は吠かきに入れ敷が纏ると緩部の本  
社に送りました。出役した人には洗軍貨と一升(ニットル)  
の塩をお渡ししました。この作業は、天気の良い日でない  
と出来ませんでした。(因ちやにサラリー(給料)とは、塩を買  
うお金を主人が使用人に払うお金だそうです)(ルルル木  
ントニホント)

或る日道駐軍のアメリカ兵が来て、裸の私達を写真に撮  
り、私達に「君達は何をしているのか」とたずねます。勿  
論全部英語です。私は知っているだけの単語を並べて製塩  
の順序を説明しますと、やつとわかつたらしく「サニキュ  
ウ」と言い、ビールを飲みに行こうと言います。ビジネス  
中だと言うといエスイエスとい、向こうに行ってしまう  
ました。

昭和の始め「グンゼ」が秋田石蔵さんにこの一帯の土地を  
売って貰い、結核病舎を建てようとしたが、地元の方  
対に造い、産業道路(現国道)で半分は区切られ、終戦後  
は農地調査法で道より山側は没収され、そこは現在広場(ハ  
ランド)となっており、安身の姫の汲んだ湯も製塩  
に使われたのではなうでしょうか。

## 生活の合理化について

生活の合理化を話し合ひ会  
(自治会・公民館・老友会・婦人会)

七月、十一月の二回の会合で次のような事項を話し合  
いました。これらは、生活の合理化にむかっている歩み出しと  
いったところです。色々とお考えやご意見があることと思  
います。ご家族・隣近所の方々と話し合つて頂き、お互い  
に無理のない気持ちよい生活をめざして、ステップバイス  
ステップで前進していきましょう。次回の会合には、皆様の  
ご意見が反映されてくる事を期待しています。



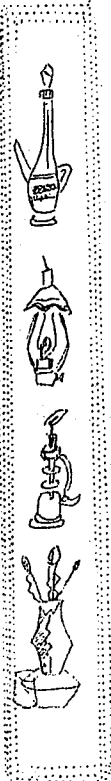
○葬式当日

- ① 献立は、持ち帰らずにその場で食べられる程度にし、油あげ・とうふ・干びょう等は食(易い)ように量や大きさを加減する。女性も必ず献立企画の相談に参加する。
  - ② 砂糖の外箱入りは やめにする。
  - ③ 庭働きの人へのお礼は やめにする。
  - ④ ランチ四のない地区は 購入してもらう。
  - ⑤ 砂糖の上に 生菓子、又は カステラをそえたりする地区があるが、やめにする、やめたらどうだろうか。
- 初七日の夕食は やめにする。
- 連夜の菓子は その場で食べられるものに。
- 初盆の墓前の供花をしている地区は、一対を一本にする。
- 由良地区内では 個人の花輪は やめにする。
- 祠堂金は金額を明記せず、金一封として。
- お布施は 何らかの基準額を作ってほしい。
- 忌明けの挨拶状については、香典の受取りになるから必要—— 自治会内ではやめにしたらよい—— というように二つの意見が出た。

○四十九日の引出物については、兄弟その他の親戚からはやめにする—— 家によっては多少のちがいがあっても仕方ないのではないか—— など意見が出た。

○見舞返しは 気持ち程度に。

○祝事は はでにならないように。



文化部からのお願い

「宮津市内文化財めぐり」について

わたしたちが歴史を調べていくことは、先人達の歩んだ道を知り、それをわたしたちが、わたしたちの生活をみつめ直し、よりよく改めていくために学ぶものだと思われたいと思います。

宮津市内にも、数多くの文化的な遺産が残されています。これらの見学会を予定しておりますが、参加ご希望の方々の予想がますます、配車計画等の具体的な計画を立てることができませんので、参加ご希望の方は、公民館長・主宰

までお知らせください。

計画案、次の通りです。

時期 五十二年三月予定

見学コース 禅海寺—— 金剛心院—— 籠神社——

国分寺—— 丹後資料館—— 智恵寺

※ いずれも重要文化財、国宝等に指定されています。

多額のご寄付有難うございました。

先日、宮本の竹田道夫さんから由良公民館へ金考査用のご寄付を頂戴しました。誠に有難うございました。みんなが相談の上、有意義に使用させて頂きたいと思っております。

編集だより

公民館では、この館報を由良の皆さんに、地区内の問題や、

日々の生活を考えるための素材として役立てていただくことを願っております。

身近なこと等で、建設的なご意見がありましたら、お寄せくださいますようお願いいたします。

なお、原稿には、責任の所在をはっきりするため、お名

その気になろう！

前を書いてください。

記名のないものは、編集の際、館報への掲載は、係によって取捨選択をしますからおおしくみおきください。

また、館報に掲載しますとき、匿名希望のときは、その旨、お書きください。

ルール違反は 社会悪

とかく交通のルール違反は、軽くみられから

一つ間違えば、買界行だというのに

年末も間近、雪も間近

自動車の運転にも

自転車の運転にも

道を歩くときにも

みんなの幸を思っ

守る気になろう

交通のルール

